

青少年教育の 基礎知識



福岡県立社会教育総合センター

青少年教育の基礎知識

ここで話すこと

1 青少年教育とは

2 青少年の現状と課題

3 体験活動の必要性

4 青少年教育の方向性

青少年教育の基礎知識

1 青少年教育とは

1-(1) 青少年とは

乳幼児期： 小学校就学前の時期
(人格の形成)

学童期： 小学生期
(社会性の獲得)

思春期： 中学生～高校生に当たる時期
(大人への移行)

青年期： 高等学校卒業以後に当たる時期
(公共への参画・貢献)



青少年とは、
人間形成の途
上にある人た
ちを指します。

1-(2) 青少年教育とは

1. 社会教育法

第2条

「この法律（社会教育法）において『社会教育』とは、学校教育法等に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう。」

2. 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

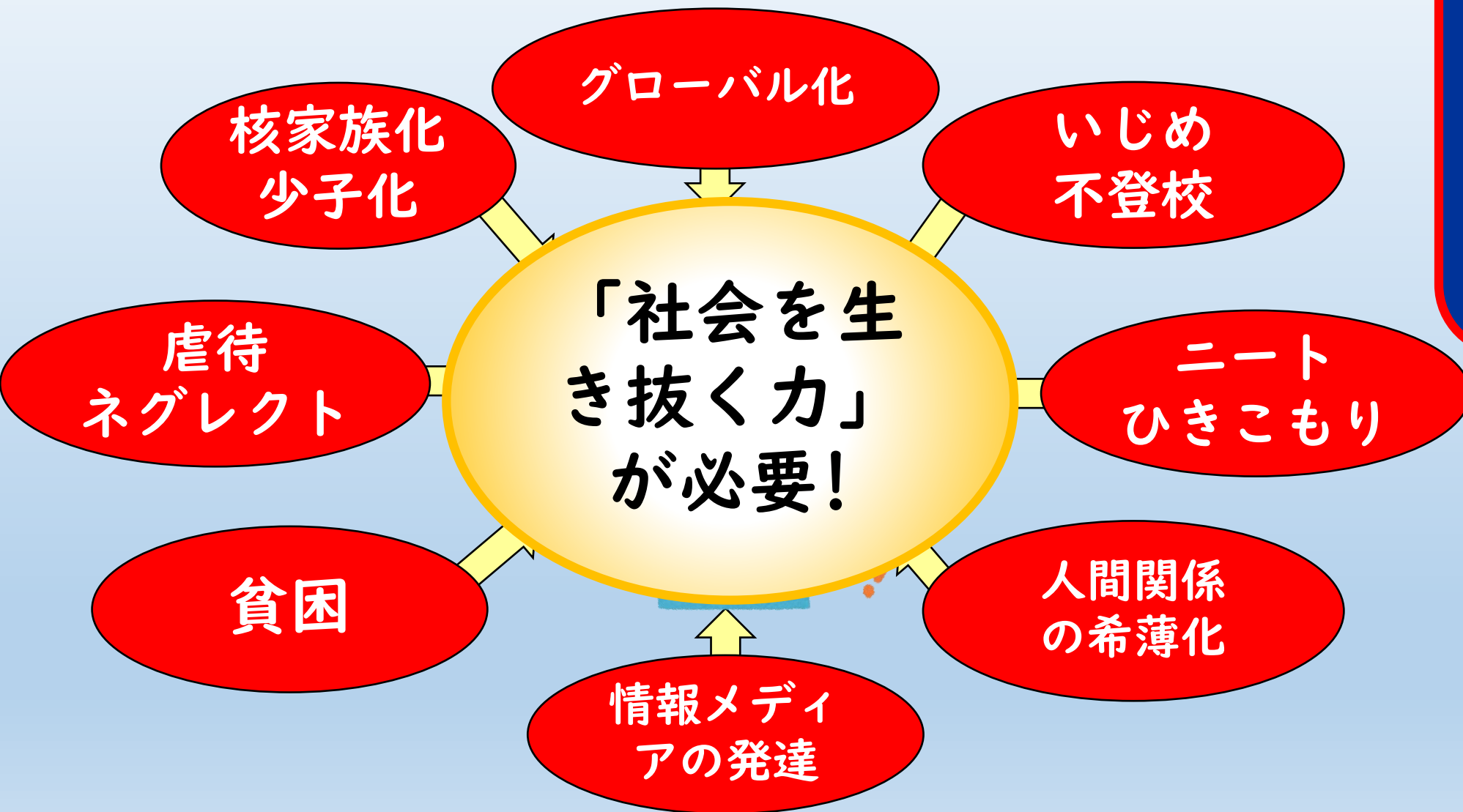
（教育委員会の職務権限）

第21条第12号

「青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。」

青少年教育
は社会教育行政の一領域として教育行政に位置付けられています。

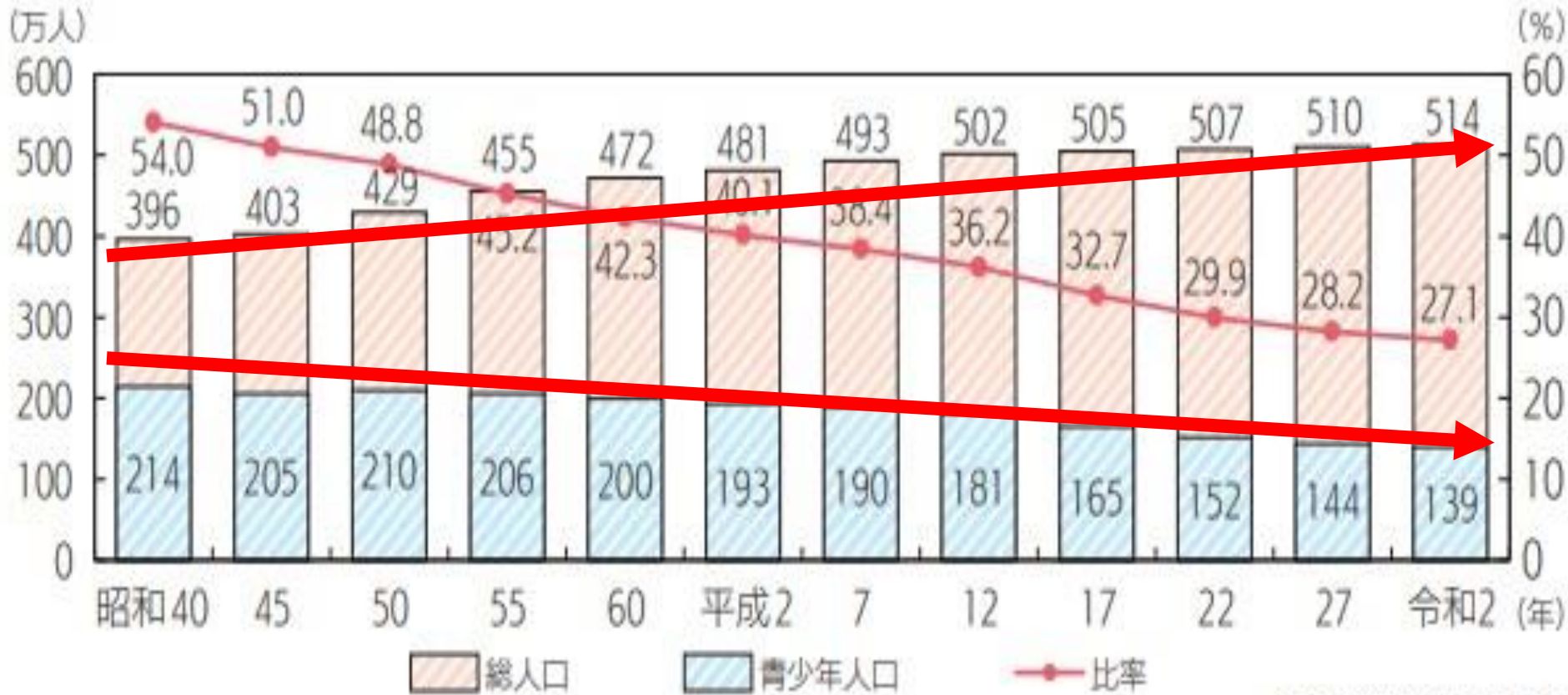
1-(3) 現代の青少年を取り巻く状況



青少年に「社会を生き抜く力」をつけなければなりません。

2 青少年の現状と課題

2-(1) 福岡県の青少年人口の推移

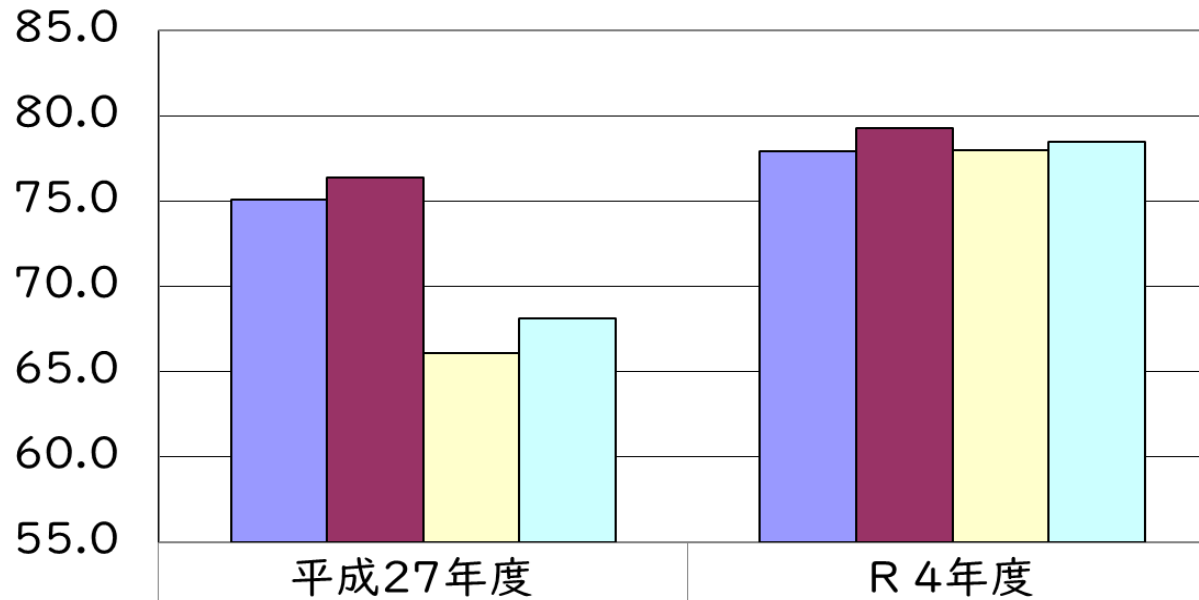


資料：総務省「国勢調査」

少子化が進み、
青少年の人口
は減少し続け
ています。

2-(2) 福岡県の小中学生の自己有用感の現状

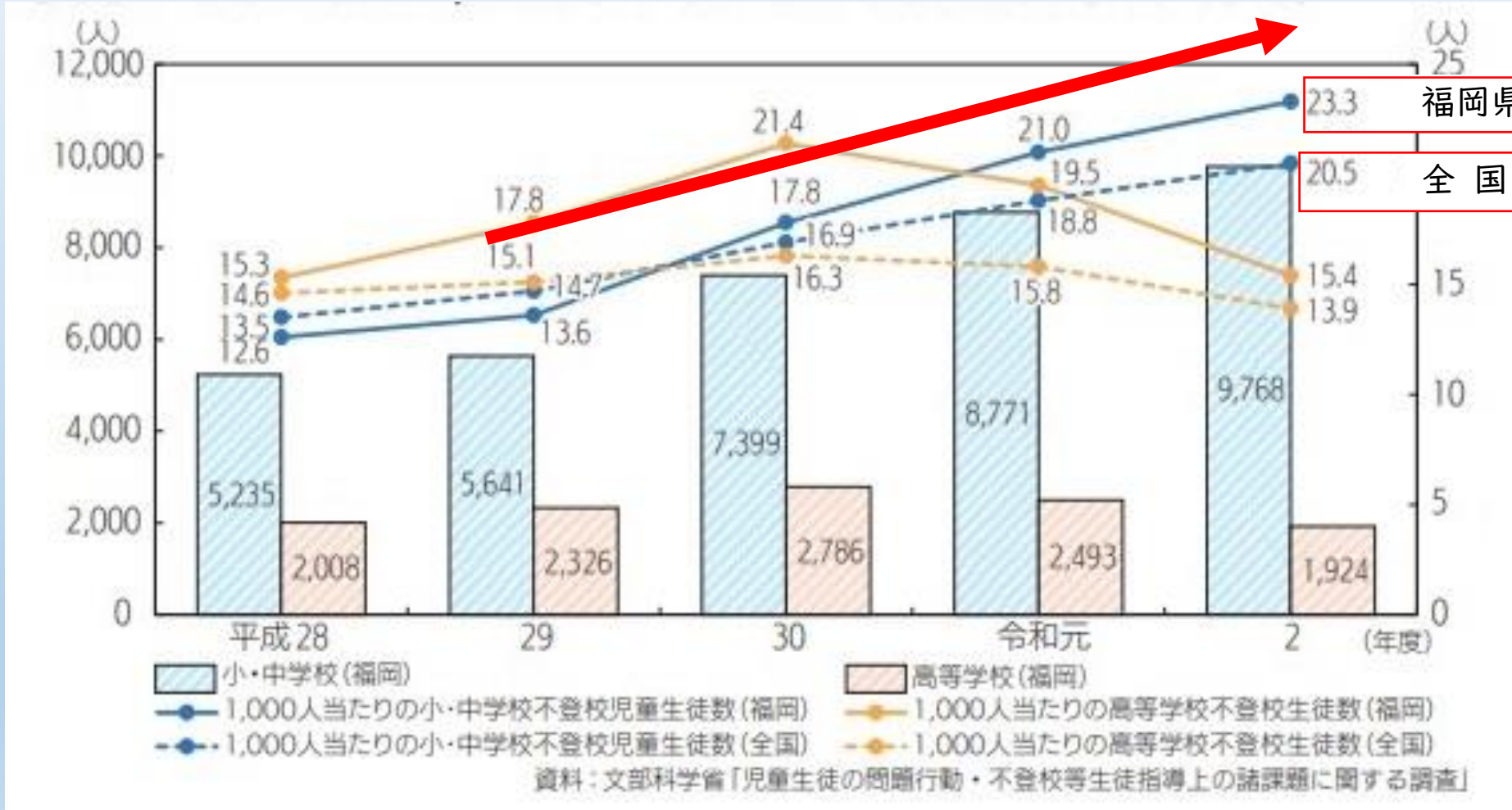
全国との比較



自己有用感が
全国より低い
です。

2-(3) 福岡県の不登校児童生徒の現状

本県と全国の1,000人あたりの不登校児童生徒数の推移



不登校児童生徒の数は増え続けています。

2-(4) 自然体験の現状

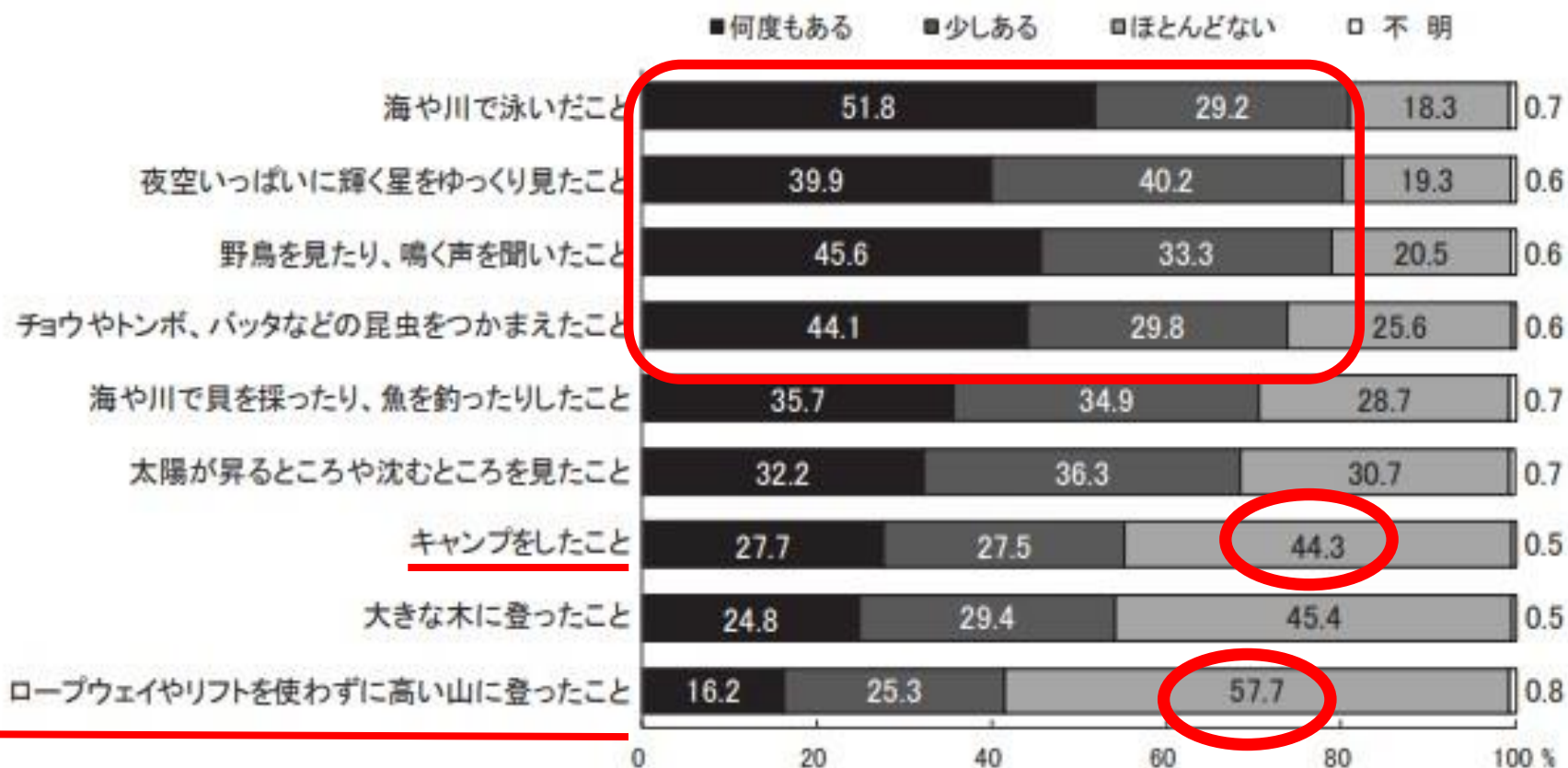


図 2-2-1 自然体験の現状 (小4~小6、中2、高2)

約半数が、
キャンプや登山の経験がありません。

2-(5) 生活習慣の現状

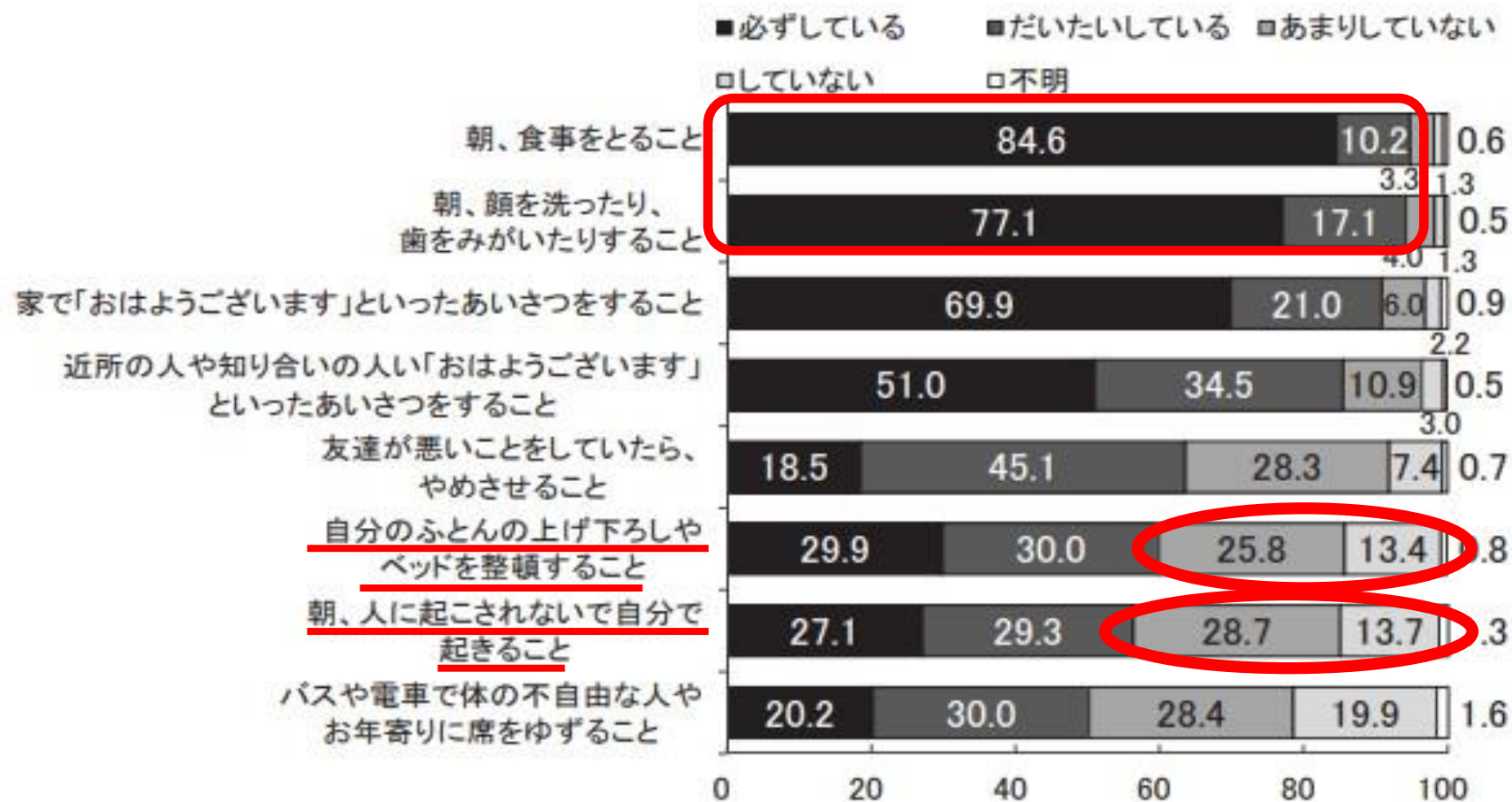
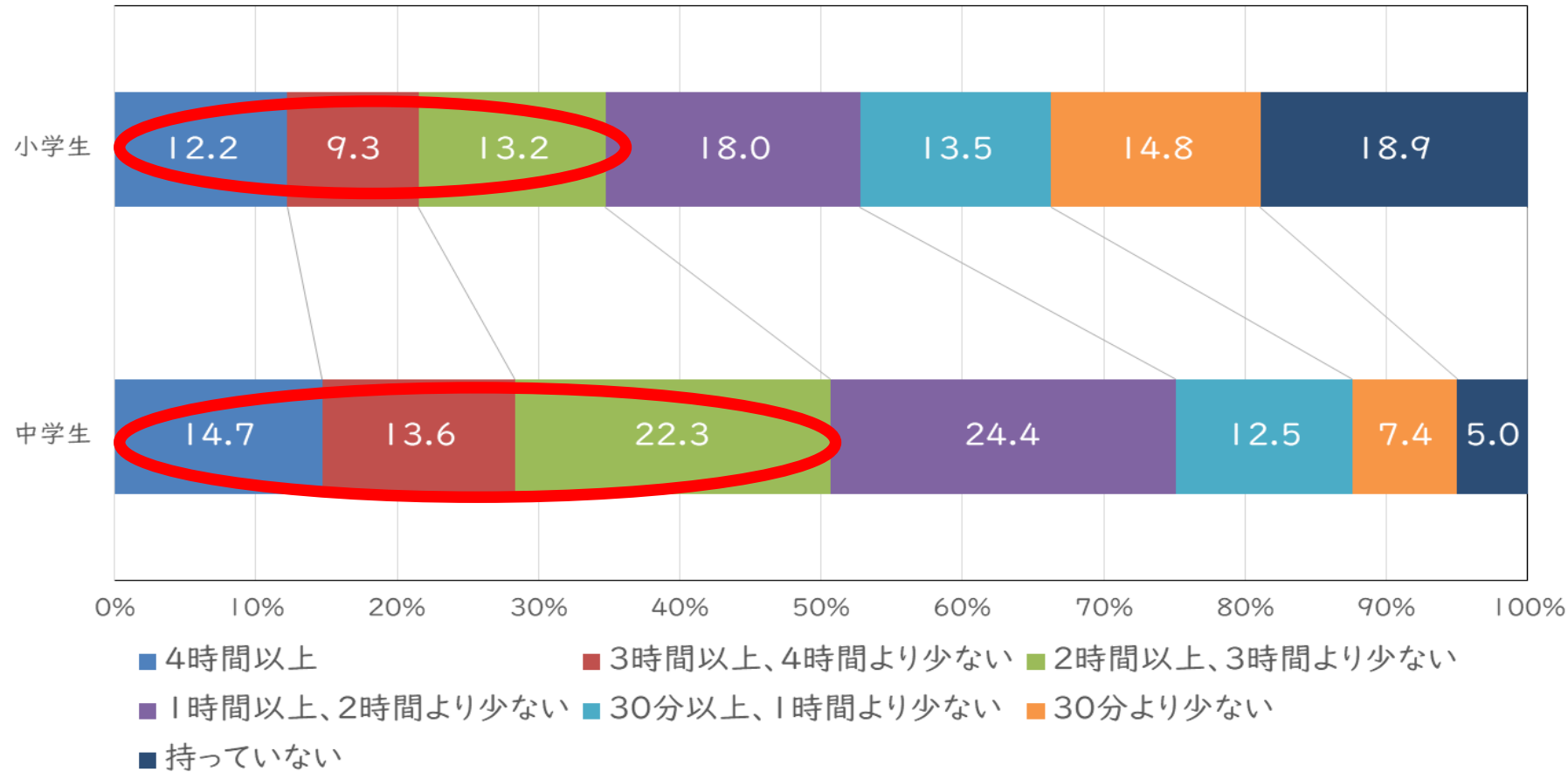


図 3-1-125 生活習慣の実態

家庭生活の中で自立ができていません。

2-(6) 電子メディアに関する現状

普段、1日当たりどのくらいの時間、スマートフォン等でSNS・動画視聴をするか？



小・中学生の約40%程度の子が、電子メディアに2時間以上ふれています。

2-(7) 青少年を取り巻く課題

自己有用感
の低下

不登校
児童生徒
の増加

電子メディア
に依存

子ども同士
で切磋琢磨
する機会の
減少



自然体験や
生活体験の
減少

青少年の健全
育成にとって
深刻な事態に
直面していま
す。

3 体験活動の必要性

3-(1) 青少年の体験の変化

以前



現代



現代の青少年は、心や体を鍛える体験の機会を失っています。

3-(2) 体験活動が人生を変える？

「子どもの頃の体験は、
その後の**人生に影響する**」

平成22年10月 独立行政法人国立青少年教育振興機構

「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書〔概要〕より

体験活動は、
規範意識・職
業意識・人間
関係能力等を
高めます。



3- (3) 体験活動の効果（自然体験・生活体験）

自然体験

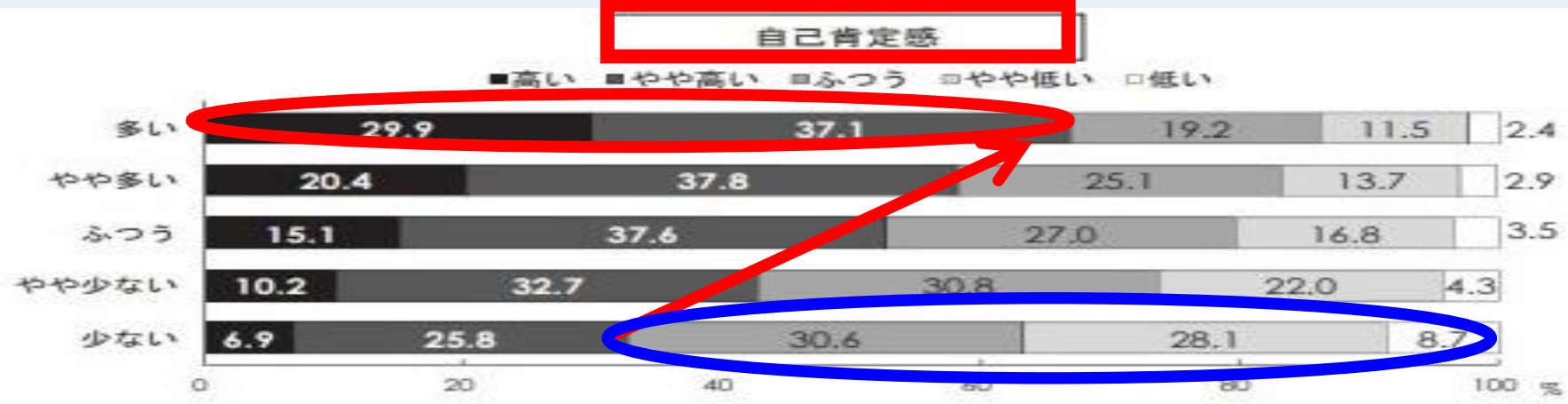


図 3-3-25 自然体験と自己肯定感の関係 (小4~小6、中2、高2)

生活体験

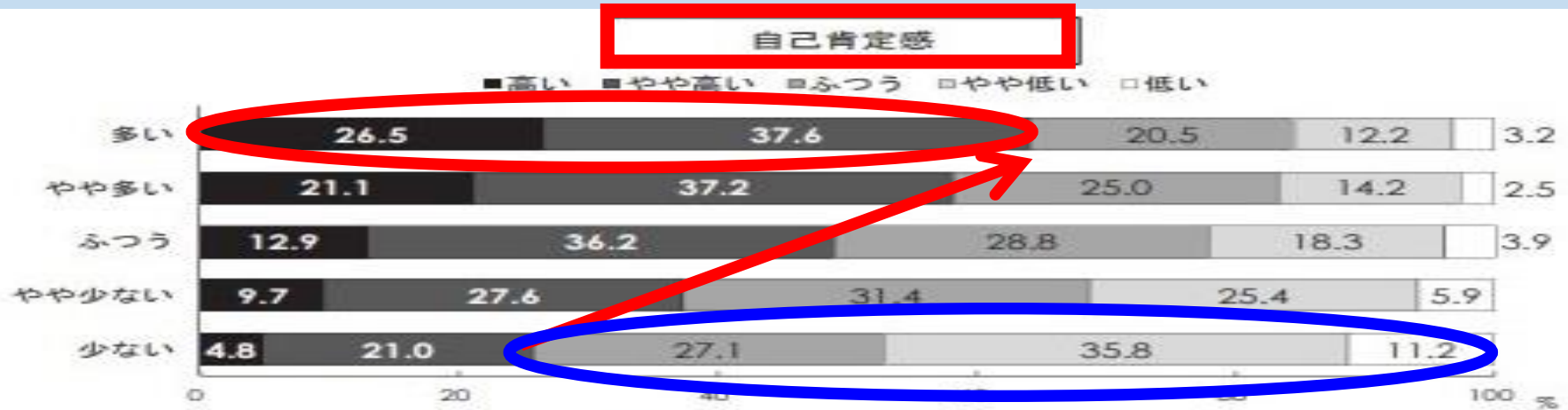


図 3-3-26 生活体験と自己肯定感の関係 (小4~小6、中2、高2)

自然・生活体験が多いほど自己肯定感が高いです。

3-(4) 体験活動の効果（お手伝い・生活習慣）

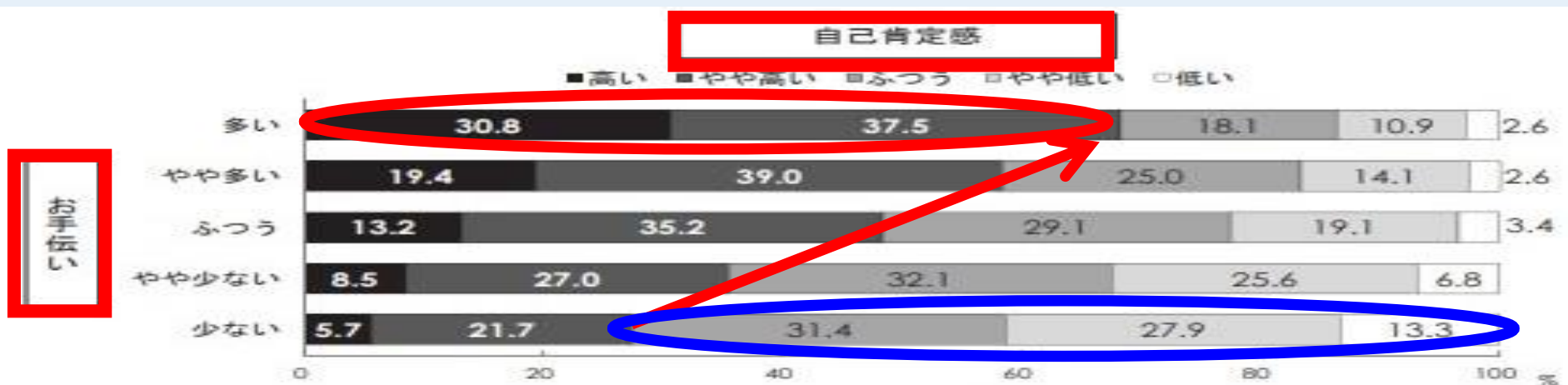


図 3-3-27 お手伝いと自己肯定感の関係（小4～小6、中2、高2）

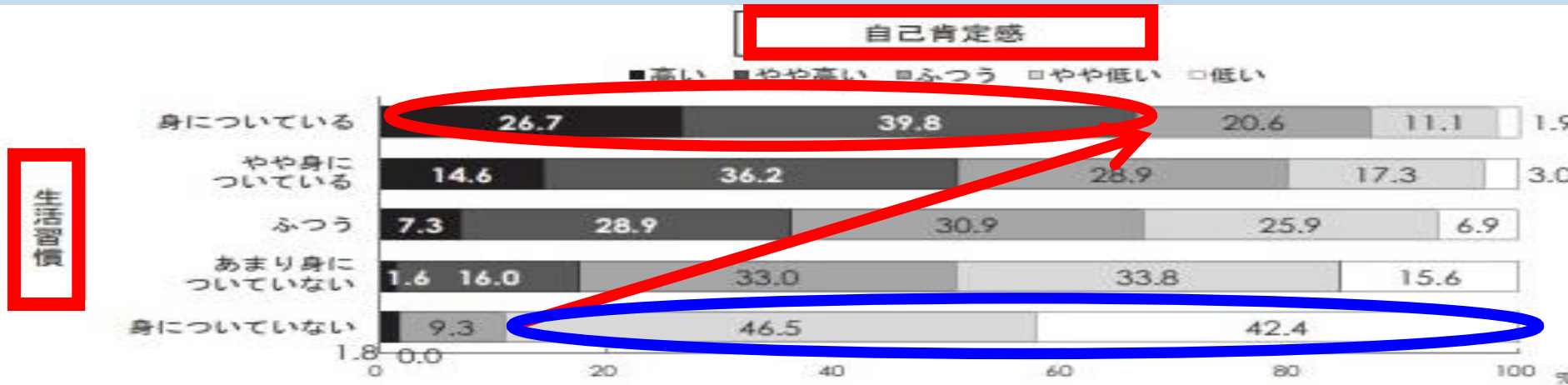


図 3-3-28 生活習慣と自己肯定感の関係（小4～小6、中2、高2）

生活習慣や
手伝いが自
己肯定感に
影響します。

3-(4) 体験活動とは

【体験活動とは】

体験を通じて何らかの学習が行われることを目的として、体験するものに対して**意図的・計画的に提供される**体験。

(平成19年中央教育審議会答申より)

「社会を生き抜く力」を養う効果があります。

【生活・文化体験活動】

放課後に行われる遊び
お手伝い
野遊び
スポーツ
部活動
年中行事

【自然体験活動】

登山
キャンプ
ハイキング
星空観察
動植物観察

【社会体験活動】

ボランティア活動
職場体験活動
インターンシップ

4 青少年教育の方向性

4-1 福岡県がめざす青少年像

青少年が自分自身を大切にした上で、相手のことを尊重し互いの多様性を認め、思いやりの心を持って社会的な自立を果たせるよう「豊かな心と志を持つたくましい青少年」の育成をめざす。

福岡県青少年健全育成総合計画（福岡県青少年プラン 令和4年3月）

県政の重要課題として位置づけています。

4-(2) 「鍛ほめ福岡メソッド」の仕組み

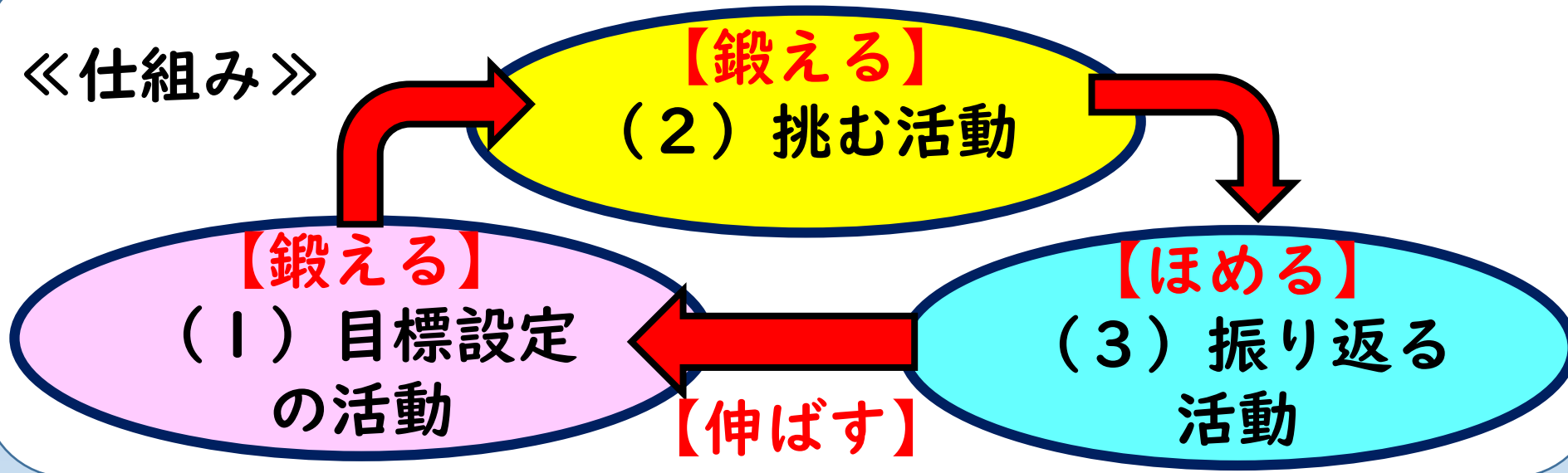
《コンセプト》鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす!

子どもの学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や逆境に立ち向かう心など、子どもが自律的に成長するための指導方法。

「鍛ほめ福岡メソッド」実践の手引きより

共通の仕組みで指導することで効果を高めます。

《仕組み》



4-(3) これからの青少年教育に求められるもの

〔社会を生き抜く力の育成〕

新しい価値観の創造、異なる他者と協働
コミュニケーション能力をつけた人材

〔体験活動を推進する社会的仕組みの構築〕

地域・学校・家庭・民間団体・民間企業等
がそれぞれの役割を果たして連携

社会を生き抜く力と体験活動の推進が求められます。

4-(4) 青少年教育の3つのキーワード

鍛ほめ

関係機関の
連携・協働

体験活動
の推進

学校教育と
社会教育の
連携・協働
が大切です。



4-(5) 社会教育・生涯学習関係職員等の役割

青少年施策の
総合的・計画的
な推進

民間団体
企業との
連携・協働

必要な情報
提供や調整
などの支援

体験活動
の指導・
助言

地域の実情
に応じた
施策の展開

それぞれの**役割**を**果たし****連携**することが
大切です。

